

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階)

事業所番号	2794000253		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカーロしばはら・リボン		
所在地	大阪府豊中市柴原町2-7-15		
自己評価作成日	令和3年7月20日	評価結果市町村受理日	令和3年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当時は新型コロナの感染症予防対策の為、通常の対応が出来ていない部分が多々ありますが、ゲスト様・スタッフ共に感染者を出す事無く、無事に2度目のワクチン接種が完了しました。接種が完了しても安心することなく、予防対策を進めてまいります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.shinmeikai.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年9月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、医療と介護の両側面から地域の高齢者を支えることを目指す医療法人が11年前に通所介護施設と併せて開設した施設である。医療面のサポートに加え、非常勤であるが看護師が配置されているので健康管理や速やかな治療処置が家族に安心感を与えている。またコロナ禍の現在でも、日常のレクリエーションに加えて月替わりに様々な行事(初詣、新年会、雑祭りなどは勿論、父の日、母の日、お誕生日会、ミニ運動会、スイカ割り、フラワークラブなどたくさん)を利用者が楽しむ支援を職員一丸となって取り組み、その利用者の様子を事業所のホームページのブログに毎週のように紹介している。家族はそのブログの中に自分の親や兄弟姉妹や祖父母の姿を発見して、喜びと共に安堵感を感じている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、行動指針を朝礼時に唱和し、困った時や困難にぶつかった時に共通認識として持つようにし、そのように努力している。6月に1回の面談で理念共有の状況確認を行っている。また、理念に基づくグループホームの目標を設定している。	職員は、毎朝礼時に法人理念(愛・共感・奉仕)の精神と共にその精神に沿った施設の目標を唱和して日々の業務に当たっている。この法人の理念と施設目標は玄関入り口にも掲示して毎日確認している。事業所は年2回の職員面談時に目標管理シートで職員の法人の理念と施設目標の理解度をチェックしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域より定期的にボランティアの方に来て頂いたり、小学校の合唱団の方に来て頂いたり地域の行事(主に敬老会等)や市の行事に参加したりしている(今期は、新型コロナウイルス感染症対策の為、通常対応が出来ていない。)	コロナ禍の中、昨年より自治会の回覧板は通常通り回ってくるが地域のボランティアや近隣の保育園、小学校等との交流は中断している。地区社協(校区福祉委員会)とは年1回オンライン会議に参加して良好な関係の継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同一敷地内のデイサービス・居宅支援事業・グループホームの運営により地域の高齢者支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を行い、地域の方、市・地域包括等の行政の意見を伺っている。ご入居者にも参加して頂き、運営に生かしている。(今期は書面にて実施)	コロナ禍の今年度は会議の開催は、奇数月に書面でサービスの状況や事故報告等の報告をしている。書面の送付先は、地域包括支援センター、民生委員、市社協校区福祉委員会、家族である。家族からはケアマネージャーなどに問い合わせ電話がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で助言を頂いている。	管理者は、市内の介護保険事業所連絡会の役員をしているので市の担当者とのオンライン会議に参加してコロナ下でも協力関係を継続している。また市への申請書類は現在すべて郵送申請になっているので市役所に出向くことはないが、相談や質問があれば担当者に電話をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は、年間研修計画に基づき、年2回開催している。身体拘束等適正化委員会を3か月に1回開催しており、管理者、各ユニットのサブリーダーが話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在は身体拘束は行っていない。	事業所は運営規定第14条に身体的拘束等の禁止を定め、適正化指針を整備し、三月に1回以上身体的拘束等の適正化委員会を開催し、今年度は全職員にSNS動画情報ツールを使って研修を行っている。利用者はフロア内を自由に行き来できるが、の離設事故防止のためフロア出入り口は施錠している。1階の玄関は施錠されていない。また現在は拘束事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に基づき、高齢者虐待について勉強会を行っている。日常的なケアの中で、不適切な接遇があれば、注意し合える関係に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に基づき、人権について勉強会を行い、権利擁護について個々の職員が考える機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、重要事項を説明し、契約の締結を事業所に来所又は訪問させて頂きご理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はもちろんの事、ご家族様からの意見を聴取し出来るだけ意見を反映させられるように努めている。	コロナ禍で面会制限を昨年より続けているがケアマネなどが家族からの電話でケアについての要望を聞いている。現在は家族の要望により、フロア入り口のガラス越しの面会を行っている。利用者にはケアマネ、居室担当者等がその都度、要望を聞き支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長等は年に2回以上職員との面談の機会を設け、運営に関する意見を聞き、反映に努めている。	毎月、全体職員会議、フロア会議を開催し、管理者やリーダーは職員から意見や提案を聞く場を設けている。最近では災害備蓄品について話し合った。また管理者は年度初めの個別面談時に、各職員が立てた個人目標の達成度をヒアリングし、職員の要望や悩みなどを聞いている。資格取得や年休取得などの要望を実現できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回個人面談を行い、個人の能力等を把握している。それに応じての昇給昇格を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に基づき、施設内で勉強会を行い、職員がスキル向上や知識向上の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊中市の事業者連絡会に参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時等聞き取りを行い、出来るだけ不安な事や要望に耳を傾け落ち着いて過ごして頂けるように関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、ご入居後も生活に反映させていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われる情報はご本人様、ご家族様と話し合いをし、必要な支援を担当の介護支援専門員と検討し、必要な場合には他のサービスにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂き、出来ない事はサポートする事を基本に出来るだけご本人様を主体として生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は新型コロナ感染症対策として実施出来ていないが、運営推進会議にはご入居者・ご家族様共に参加して頂く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力や馴染みの関係の方と手紙のやり取りをしたりしているご入居者もある。	コロナ禍で面会制限を昨年から続けているが、家族からの要望もありフロア入りロガラス越し面会を実施している。利用者の中には職員の支援で絵手紙を家族や知人に出す人もいるが、馴染みの店への買い物等外出は控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の生活を把握し、席順等も考慮し楽しい雰囲気でご過ごして頂けるようにし難しい時はスタッフが間に入り楽しく会話できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も電話連絡や必要に応じて訪問している。また、退所後に訃報の連絡を頂いた場合は参列させて頂く等の対応も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々変化していご入居者の要望や意向を受け止めその都度、臨機応変に対応している。	ケアマネージャーは、入居前に自宅や病院に本人を訪ねて、本人や家族の要望や思いを丁寧に聞いている。本人に聞くことが困難な場合は家族に本人のこれまでの生活状況や趣味、食事の好みなど様々なことを詳細に聞いている。入居後は居室担当介護職員が日常のケアの中で声かけをし要望を聞いている他、ケアマネージャーも話しかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の状況を把握し、過去の暮らしを把握することで出来るだけご自身が今までの暮らしを継続できるようにスタッフは努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で一日の過ごし方をアセスメントし夜勤も含め職員全員がトータル的に把握出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室に居室担当者を付けてカンファレンスを行い、担当者やその他スタッフの意見を聴取、記入してそれに即したケアプランを作成し実行している。	ケアマネージャーは、居室担当者の業務日誌、毎月のモニタリングや看護記録と家族の要望、かかりつけ医の意見を参考に、3カ月をめどに管理者、居室担当者、看護師とカンファレンスを行い、ケアプランを見直し作成している。コロナ禍の現在、家族には郵送して電話説明をし確認印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況をスタッフで共有し、必要であればカンファレンスを行いその都度変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診、外泊、外出等家族様の要望に応えられる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に1回フラワークラブを開催しており、近くのお花屋さんに花を届けて頂いている。季節行事では、仕出し屋さんから出前をして頂き、ホーム内ではなかなか口にすることができない食べ物を召し上がって頂いている。コロナウイルスが蔓延する前は、近くに回転寿司やファミリーレストランへ外出に出て頂く事もあった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が月2回来られており、それ以外でも、専門外来に行かれておられる入居者様もおられる。	利用者全員が法人系列のクリニック医師をかかりつけ医として月2回の訪問診療を受け、24時間オンコール体制がとれている。同系列歯科医の月2回の訪問診療を受け、他の専科は、かかりつけ医の指示により家族、または職員同行で受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様のちょっとした変化も看護師に報告し、状態を確認し支持を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は医療機関の相談員と連絡・調整を図り、必要に応じて退院前にカンファレンスに参加し早期退院が出来るように働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を定め、ご家族様に説明している。またご家族様と話し合いを行い方向性を決め転居も含めて話し合いをしている。	重度化、終末期対応の必要が生じた時点で方針について詳しく説明し、家族の意向に沿って対応している。協力医療機関への入院、系列の介護施設への入居の関り、本年度には2名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には往診のかかりつけ医と24時間連絡の取れる体制を作り、看護師も急変時には対応できるように体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。設備としてはスプリンクラー、ナースコール、場内放送設備あり。	コロナ禍により、消防署立ち合いはないが、既定の訓練は行っている。但し、非常勤職を含めた全職員と利用者の参加は出来ていない。各種災害の対応マニュアル(対処方)を整備し、時期に応じての見直しを行っている。地域事情もあり、地域との協力体制については今後の課題とする。	職員体制と利用者状態、構造の条件に応じた複数回の訓練実施を望む。加えて、避難後(同所階上)のケアや暮らしの体験、備蓄・防災用品の検証・再検討し、災害対策の充実を期待する。地域との協力体制についても、階下の通所事業所と連携しての努力に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づきプライバシーを損ねないように努めている。出来るだけ丁寧語で対応するように努めている。	利用者の職歴や経歴、経験値を理念の「愛」をもって理解し、その人の日々の気持ちを「共感」し、「奉仕」の精神で行動すれば、一人ひとりに接する態度となって現れると接遇の一つ一つを、人格の尊重に繋がげる対応をするよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人様の希望を聞き自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションに参加して頂く際は、強制せず自由に参加して頂いている。お一人おひとりの過ごし方を尊重し、無理強いをしないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人様の希望に沿ったおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けを見て頂いたり、食事を分けて頂いたり、食器を拭いて頂いたり個々に出来る事をして頂いている。(内容によっては食事作りを手伝って頂いたりもしている)	前日に配送された献立付き食材を調理して提供している。時節に合わせた行事食もあり、事業所の注文にも応じてもらっている。食レクとして、季節や好みに応じての、手作りおやつ、テイクアウトや仕出しなど、各ユニットでの工夫がある。職員も同じものを食べている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事摂取量、水分摂取量を把握し嚥下状態に合わせて刻みやミキサー食の提供等個々に提供方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にうがい、食後に歯磨きを行っている。8割の方が訪問歯科の受診を週1回受けており口腔内のトラブルを回避している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はほとんどの入居者様がトイレやポータブルトイレでの排泄を行っており、状況に応じて布パンツやパットの種類を変えて快適に過ごして頂けるように努めている。	認知症の進行など、各人の状態や排泄パターンに応じて排泄介助を行っている。トイレの排泄が可能な人、そうでない人それぞれ排泄用品を適宜、適切に使用して自立継続にむけての支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳やヨーグルトを提供しており、便が出にくい方は個別に牛乳を飲んで頂いたり、運動をして頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は個室で基本的に1対1での対応となり、ご本人様の希望も聞きつつ対応している。御希望によってはヘアーカラー等の対応もしている。	週2回、午前中を基本としている。車イスの2名もシャワー浴だけでなく2人介助で湯船に浸かるなど、全員が湯船に入り見守りや介助で自分なりの入浴スタイルを尊重した支援がある。必要があれば、階下の通所介護事業所の特浴の利用も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体力や持病に合わせて、その日の体調に応じて休憩をとってもらい無理なく日々を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報に関しては往診時に変更等あった際は理由と目的を記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活歴から個別にホームでの役割をして頂いている。出来る事と興味のある事を出るだけ繋げて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症対策として、ご家族様との外出は受診以外ではできていないが、スタッフ同行の近隣の散歩は随時実施している。	季節に応じて外出レクとして遠出の楽しみもあり、日常的に近くの公園に出掛けていたが現在自粛中である。しかしコロナ禍対応の情勢を見ながら週2～3回は近くの公園での散歩を行い季節の移ろいを楽しむようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に沿って立て替え金による買い物を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に電話をかけたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。可能な方には携帯電話も使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い出来るだけスタッフ全員で環境整備に取り組んでいる。絵画やゲスト様の作品を飾りアットホームなフロアーにしている。	採光・通風・ゆとり感も十分に、各ユニットごとに壁面の飾りに工夫があり、暮らしの場としての心づかいが其処にみられ、居心地の良いリビング兼食堂となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチを置いたり、日が入る場所に日向ぼっこ出来る場所を作ったり、イスを至る所に置き、思い思いに過ごせる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者様にとって出来るだけ愛着のある物や馴染みの物を持って来て頂いている。基本的には、ご本人様とご家族様と相談して衣類の入れ替えや片付けを行って頂いている。	居室の入り口は一人ひとり工夫された表札があり、室内は既設のベッドとクローゼット、使い慣れた調度品に思い出の小物や趣味の品々がおいてある。生活感が有り、車いすや歩行にも配慮された居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアーには食事のメニューや日付を解る所に記載し掲示している。		